

I think that... if I may generalize for a minute, many Americans are more creative than they are diligent, you know.

思うのですが、ちょっと一般論で言わせてもらえば、多くのアメリカ人は、どちらかと言えば、勤勉というよりは、創造性があるといったほうがよいと思います。

if I may generalize for a minute 一般論で言わせてもらうと・・・

**慣用表現** 「アメリカ人は・・・」、「アメリカでは・・・」といった単純な一般論化の危険を認識している人が、でもあえて大まかな傾向を一般論で言いたいときに、「いろいろ細かく見れば、様々であることは分かっているものの、あえて一般論として言う」というニュアンスでおことわりを入れる決まり文句。

many Americans are more A than B 多くのアメリカ人は B であるよりも、より A である

**配慮表現** 一般論で言うにしても、「アメリカ人は・・・だ」といった決めつけ表現を嫌い、「多くのアメリカ人が B であるよりも、より A である」という言い方をし、あくまでも「一般的な傾向」として特徴を語っています。これは、人種、文化、性別、宗教などに対する偏見には非常に厳しい米国文化で大変重要な言葉上の配慮です。サポートのほうでも、tend to を使うことで、こちらも「傾向」として語っています。

**パターン構文** ある人やものの性格、性質、特徴などについて、more A than B 「B であるよりも、より A だ」という話し方がされた場合、言葉上の配慮から「一般的な傾向」として語られているというのは上述の通り。ここでの聞き取りのポイントは、比較級や比較級を使った構文に惑わされずに言いたいメッセージが、「より A だ」であることをしっかりと理解することです。Many Americans are more creative ... と聞こえてきた時点で、「！（こっち！）」としっかりと意味を頭にこすりつけ、than diligent ときたところで、「・・・x！（こっちじゃなくて！）」と処理します。

They tend to search for the better way, the easier way and get excited about inventing new things as opposed to the effort required to sustain a static situation over a long time.

彼らは、よりよいやり方、より簡単なやり方を探そうとしがちで、新しいことを発明することに夢中になりがちです。長期間、決まった状況を維持するのに求められる努力よりも、そうしたことに夢中になりがちです。

They tend to ~ over a long time

**ロジック** 「勤勉、というよりは創造性がある」とメインポイントとして述べたので、この内容を正しく分かってもらうために、同じ内容をより詳しい言い方で言い換えてくれています。creative 「創造性がある」、diligent 「勤勉である」のように、特徴や性質、価値観などを概念的に表すことばを使った場合、「具体的にどのような行動や様子のことを言っているのか」については、聞き手によっていろいろな解釈があり得ます。このため、聞き手により正確に理解してもらうために、より噛み砕いた言葉で詳しく言い換えたり、より具体的な行動や様子を描いてみせるようなサポートがくるのが一般的です。

聞き取りでは、creative, diligent という概念的な言葉が出てきた時点で、「あ、これをもっと具体的に、詳しく説明してくれる情報がきっと来るぞ・・・」と先を読んで進みます。

tend to... ~しがちです

**配慮表現** 直訳的には「～する傾向がある」という意味で、上でも触れたように、「アメリカ人は～だ」と決めつけた言い方をすることを嫌い、あくまでも「一般的な傾向」として語っている部分です。

to get excited about ... ~に興味をもつ ~に夢中になる

**やまと言葉** 「～について興奮する」という訳語で理解するとなかなかピンとこない表現ですが、アメリカ文化では、もっと広く「興味をもつ」「夢中になる」「わくわくする」「面白く感じる」「やる気がする」「情熱を感じる、燃える」といった意味で使われます。「遊び」のような話だけでなく、仕事について話すときでも非常によく使われます。

...as oppose to ~ ~ に対して、~であるよりも...

**パターン構文**

上のメインポイントでは、more A than B 「 ! (こっち!) × ! (こっちじゃなくて!)」のかたちで自分のいいたいことを宣言していました。そのサポートも、... 同じく、「 ×」のかたちで説明されています。...as opposed to ~も、「 ×」のシリーズとして慣れてしまいましょう。

(A) as opposed to (B) は基本的には、「(B) に対して (A)」と2つのものを対比させるときの表現です。ここでのように、自分のいいたいことを明快に分かってもらうために、自分の言っているのは「異なる概念、相対する概念」を対比させて、自分の言っていることの特徴を際立たせるときによく使われます。

to sustain a static situation 決まった状況を維持する

**やまと言葉**

static は「静止した」という意味の形容詞です。a static situation 「静止した状況 動きのない、変化のない状況」を sustain 「維持する 変えたりするのではなく、そのまま継続させる」ということですから、要は、ルーティン(routine)なことをすることですね。

the effort required to ~ ~ するのに求められる努力

**パターン表現**

the effort とまずシンプルな名詞を置いておいて、後ろからどういう the effort なのかを説明してくれるという英語らしい文のつくりです。修飾部分が名詞の前にくる日本語の語順とは逆であるために、聞き取りで混乱しやすい「つくり」でもあります。the effort ...でまず「努力！」としっかりと頭にこすりつけておいて、「うん、で、どんな努力なの？」と後ろを待つ聞き方で練習することによって、このようなつくりの文に慣れてしまいましょう。

ちなみに、名詞 + required to - 「~するのに求められる(名詞)」 名詞 + required for ... 「...のために必要な(名詞)」は非常によく出てきます。ここでの **the effort** required to...「~するのに求められる努力、~するのに要する努力」もよく出てくる組み合わせなので、まずはこのセットで馴染んでおくと便利です。